

奈良国立大学機構の国際戦略

【戦略】

国際的な知の循環基盤を整備することにより、専門分野を究めると同時に、国際理解と異分野理解を深め、学びの地である奈良についても知見を有し、よりよい国際社会の建設に貢献できる人材、特に教員となりうる人材ならびに高度女性人材を育成する。異言語・異文化を横断する学びを拡充するとともに、奈良カレッジズ各機関および奈良県内の多様な団体・組織・企業等と連携した国際共修プログラム、全学生対象の国際交流体験プログラム等の各種プログラムを展開し、多様な文化的背景を持つ学生・研究者・教育者・社会人が交流する「国際キャンパス奈良」を整備する。こうして国際的に開かれたキャンパスに育つ知的風土の中で、高度な研究活動を推進する。

これらのことを実現するために、国際戦略センターと両大学が緊密な連携を図りながら以下の事項について検討する。

教育の国際化

- ・奈良カレッジズとの連携を強化した国際共修プログラム、全学生対象の国際交流体験プログラムを実施する。
- ・幅広い教育分野において、国際的な課題や異文化間の相互理解に関する内容を扱う授業や海外協定校とのオンライン協働授業、国外での実習やフィールドワークの単位化等を積極的に展開する。
- ・英語を用いて学位が取得できる環境を整備し、大学院博士前期・後期課程の留学生増加に取り組む。
- ・海外協定校とのダブルディグリー等の国際共同学位プログラム構築を通じて、国際的に活躍できる研究者および高度専門人材を育成する。

学生交流

- ・多様な文化的背景を持つ留学生が安心して過ごすことができるキャンパスの整備ならびに留学生支援体制の強化に取り組む。
- ・海外派遣した日本人学生が帰国後も国際的な学びを継続できる環境を整え、オン・オフキャンパスの国際化を促進する。

研究の国際化

- ・国際共同研究の情報集約、事例の共有、海外協定校との共同研究の公募などを行い、双方向の研究者交流を拡大する。
- ・大学院生を主体とする国際共同研究を支援し、次世代の新たな価値を生み出す高度な研究活動を展開する。
- ・データサイエンス・AI、SDGs、ジェンダーなどの分野横断的研究を国際的に推進する。

学生交流・学術交流における地域戦略

- ・東アジアにおいては、中国、韓国、台湾における協定校を拡充し、学生交流・学術交流を促進する。
- ・東南アジアにおいては、インドネシア、カンボジア、タイ、ベトナム、バングラデシュ

などの協定校との学生交流・学術交流、オンライン協働授業を展開する。またシンガポール、タイ、インドとの学術交流を検討する。

・大洋州・欧州・北米とは、専門分野における学術交流を拡大し、学生交流を促進する。欧州評議会等の国際機関との連携プログラムを実施する。さらにアフリカ、中東（トルコを含む）、南米の大学との研究者交流を検討する。

以上